

生贄の羊は首を切られる、じゃじゃ〜ん!

齋 正弘 (さい G)

坪沼で行われている小さい人たちとの活動をめぐるとあれこれを何か書いてと頼まれたのだが、困ったなあ、特にしていることは何もないのだ。あえて言えば、僕は彼らと、昭和30年台あたりに僕がやった地域の子供会での竹駒神社の裏の森での遊びをなぞっているだけなのだ。ただ一応僕は長い間美術館に勤めていて、そこでの経験がその基本にあるということにははっきりしているから、その辺りを取り出して考えればいろいろわかってくるのだろうか。

さて、基本は「美」という文字である。冷静に考えればおかしいでしょう？上半分が「羊」で、それが「大きい」の上に乗って「美」って。何かの上に羊が載っている漢字は他にもいろいろある。というか、何かの上に乗っている羊は、実は「生贄の羊」の象徴なのだそう。じゃじゃ〜ん。生贄ということは、みんなでその前でお祈りなんかを盛大にして、盛り上がったところでその首を大きな刀かなんかで切り落とすわけだ。そして、おっ、今年は、ここまで血が飛んできたから豊作だ！とみんなで盛り上がる。そういうのあなたは好きか？好き嫌いは別にして、見たいか？僕はちょっと苦手だな。でも、見る機会があったら、頑張ってみようか？その時僕はどんな気持ちになるのだろうか？その時あなたが感じているのが、多分「美」というもの、状態らしい。

生贄の首を切り落とす作業の感想は見る人によってみんな違う。僕のように見たくないけど、ちょっと仕方がないなら見るとか、いや見たい。そういうの好き、あんまり人には言えないけどとか、本当に心から嫌いで、話だけで気を失いそうとか、えっ嘘、そういうの本当にあり？と、訳が分からないうちに見てしまって本当に気を失うとか、様々広範囲にみんな違う。でも、みんなに何がしか起こる。しかも、その後みんなで話し合っって意見を統一するということはない。いや、意見は切り落とした人

が、「見よ、これが今年の出来柄だ！すごいだろう！」と、みんなの意見を聞かずにすでに決めている。

これらの話は、僕たちが知っている、というより図画工作で習ってきた「美術」とは少し？だいぶ？違う。僕たちは美術で「美しいとは何か」を「学んだ」のではなかったか？

ええと、漢字の研究は深く広いので、この話はそのうちで僕の好きなひとつにすぎない。あんまり人に言わないように。とはいえ、美は、「美しい」だけではなく、「ビックリ！」の「ビ」だと覚えておく方が、利用範囲は一気に広がる。「ひええ！」と驚き、「おおっ」と驚く。その全てが実は「美」。

小さい人たちは、生まれてあまり時間が経っていないので、ほとんどの事や物がほとんど初めて経験だ。だから本当は深く驚いている。そして、「そんなこと知っている！」と頑張っって頭を上げて、しかし、複雑に本当は驚いている。彼らが驚いていることは、生贄の首切りを見た時の話のように広く深く、しかし全員に全て異なって起こっていることを意識したい。そう意識して彼らと共に活動をする、お爺さん(僕のことね)は本当にすべてが面白い。気がつく、アドレナリンが枯渇して足腰が立たなくなっていたとしても、面白い。俺もそうだったはずだと思わせてもらえるだけで、お釣りがくるくらい面白い。僕がこれだけ面白がっている、一緒にいる彼らは何もしなくても嬉しがっているのだとうれしいな。

